

ビワマス資源の年齢・体長組成(2015年)

田中 秀具

1. 目的

琵琶湖におけるビワマス資源のモニタリングを行うため、2015年のビワマス漁獲魚と回帰親魚の年齢・体長の組成を調査した。

2. 方法

主要漁期の6～9月に、刺網と引縄釣りの漁獲魚の体長(被鱗体長)測定調査を行った。一部標本からは採鱗(年齢査定)を行った。琵琶湖海区漁業調整委員会事務局の調査による両漁法の漁獲割合に合わせて、2015年漁獲魚の年齢・体長組成を推定した。

産卵期の10～11月に、増殖事業のための採卵を目的として採捕された回帰親魚の一部について、漁獲魚と同様に体長の測定と一部標本の年齢査定を行った。

3. 結果

2015年の漁獲魚の平均年齢は2.18歳、平均体長は37.2cmであった(表1)。2006年以

表1. 2015年漁獲魚の年齢組成と年齢別平均体長

| 年齢 | 1+ | 2+ | 3+ | 4+ | 5+ | 全平均 |
|---------|------|------|------|------|------|--------|
| 年齢組成(%) | 16.2 | 54.0 | 25.8 | 3.6 | 0.4 | 2.18歳 |
| 体長(cm) | 28.6 | 37.0 | 41.6 | 47.2 | 52.0 | 37.2cm |

降の推移をみると今年は3番目に若齢で小型であった(表2)。これは刺網より漁獲サイズが小さい傾向がある引縄釣り採捕魚の割合(尾数、重量とも)が高いことを反映している¹⁾。刺網漁獲魚のみの平均年齢と平均体長(95%信頼区間)の経年変化は図1に示す。近年の小型化若齢化傾向は若干改

表2. 漁獲魚の平均体長・年齢の年比較

| 西暦年 | 体長(cm) | 年齢(歳) |
|------|--------|-------|
| 2006 | 40.5 | 2.65 |
| 2007 | 42.2 | 2.64 |
| 2008 | 40.9 | 2.49 |
| 2009 | 40.5 | 2.60 |
| 2010 | 39.8 | 2.57 |
| 2011 | 40.7 | 2.50 |
| 2012 | 38.6 | 2.24 |
| 2013 | 36.0 | 2.07 |
| 2014 | 37.1 | 2.17 |
| 2015 | 37.2 | 2.18 |

善しつつあるが、隣り合う年の95%信頼区間が乖離するほどの変化ではなかった。

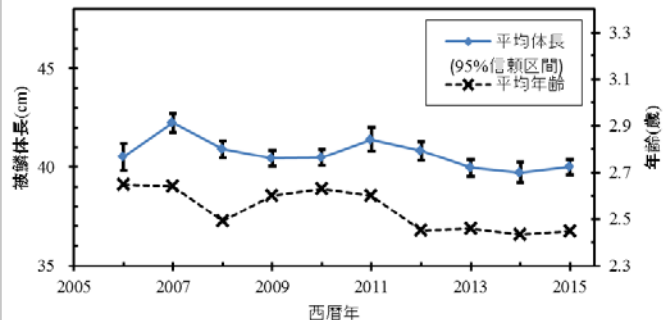


図1. 刺網漁獲魚の平均体長と平均年齢の推移

回帰親魚の平均年齢は2.74歳、平均体長は43.1cmで、1+が少なく、3+が多いのが特徴である(表3)。2006年以降の推移をみると(図2)、近年の小型化若齢化傾向は回復した。ま

表3. 2015年回帰親魚の年齢組成と年齢別平均体長

| 年齢 | 1+ | 2+ | 3+ | 4+ | 5+ | 全年齢 |
|---------|------|------|------|------|------|--------|
| 年齢組成(%) | 1.9 | 36.9 | 48.0 | 11.4 | 1.8 | 2.74歳 |
| 体長(cm) | 33.5 | 40.1 | 44.3 | 48.8 | 51.5 | 43.1cm |

た増殖事業のための親魚の採捕、採卵は例年通り順調に行われ、親魚の不足はなかった。

以上の結果から、2015年の漁獲魚、回帰親魚は近年の若齢化、小型化から、回復し、昨

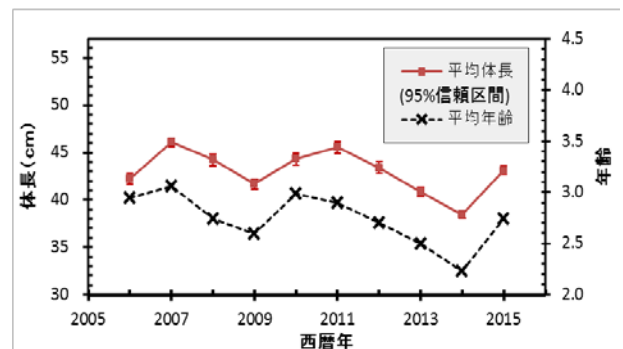


図2. 回帰親魚の平均体長と平均年齢の推移

年懸念した資源減少の兆候は変動の範囲内とみることができる。現状では資源構造の変化はないと評価した。